

石川県内の援助職者によるゲストスピーチ

さぶりクリニック院長 佐分美代子さん

水原先生の取り組みを聞いて、本当にご苦労なさって、色んなネットワークを作り上げてらっしゃるんだなあということで感銘いたしました。

私はクリニックの院長で、摂食障害の方の治療もしておりますが、精神疾患を全般にわたっての治療を行ってますので、あまり摂食障害専門というわけではないですし、このセッションに参加するにあたり色んな雑誌を紐解いてはみたんですけども、なかなか勉強不足なところばかりで反省ばかりしているような状況です。

石川県でも『からこ舎』というものができ、少し使える資源も増えてはきてるのかなと思います。そういうものとうまく連携して治療をしていければいいかなと思うんですが、拒食症タイプの方は、やっぱりクリニックではなかなか難しく、身体的治療を共にやっていただくように、拒食症の方がいらした場合は大抵総合病院の方に紹介しております。

過食タイプの方が多いのですが、過食タイプの方でも、うまく治療の病識があって治療のモチベーションをしっかり持っていらっしゃる方だと、割と通ってはいただけるんですが、いらして、すぐに過食を止めてくれという事を言われる方もおられ、そういう薬はないですよという話をしています。

少し精神療法的なことをやってきますか？という話はしてみても、なかなか続かないというのが悩みの種です。

今も続いていらっしゃる方は慢性的に摂食障害が続いている方が多いので、いいのか悪いのか、これもまた反省のひとつの点だと思うんですが、提供できる医療というのがあまりにも少ないというのが1番の反省点なので、支持的な精神療法みたいな事はやるんですが、それもなかなか長時間は取り組めていません。

支持的な精神療法でやっても、どこかで、それだけではうまくいかなさが摂食障害の方にはやはりあり、色んな治療教育・家族療法とか組み合わせていかなければならないんだろうなと、また改めて感じました。

認知行動療法的なことも少し試してみたりもしているんですが、まだまだ緒についたばかりで、通ってきてくださってる方は通ってくださっていますが、それで本当に有効な治療になってるのかどうなのか、もう少し色々な社会資源を利用して横との繋がりをつけていくことによって、もっともっと深い関わりができればとよいのかなとは思ってはおります。

簡単ではありますが、京都での取り組み、先生の話だけ聞いているとすらすらと耳を通り過ぎていくんですけども、その裏にどれだけの力、エネルギーを注いでこられたのかと思うと本当に頭が下がるばかりです。簡単ではございますが、また勉強していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。